

これからの図書館への期待

花谷 修一

多摩市在住の花谷と申します。多摩市でも新しい中央図書館を建設するという事で図書館に俄然興味を持ち、町田での図書館に関するイベントに参加させていただいたご縁で、このように投稿する機会を得、大変光栄に存じます。

さて「図書館」は本に親しむ人にとっては「知の宝庫」としてとても大切な場所です。

しかし、ICT 技術が極度に進む第 4 次産業革命が進みつつある今、「知の宝庫」はネット上に移行し、印刷された本ではなくなりつつあるとも言われています。また一方では「アマゾン」に代表されるように、この ICT 技術を高度に活用して本の流通革命が進行しています。「ブックオフ」も侮れません。

このように時代が大きく変わろうとしていく中で、図書館も単なる資料の提供場所としての従来の伝統的役割だけでいいのだろうかというのが、まず私の問題意識です。

結論から申し上げれば、この時代の流れには抗しきれないだろうというのが私の見解です。図書館が従来の役割のままに固執していたのでは、次第に市民から遠ざけられるに違いありません。現に何かの調べ物をする場合にわざわざ図書館に足を運ぶ人が多いか、自分の PC またはスマホで検索する人が多いか明々白々です。話題の新刊本をぜひ読みたいと思った時、図書館で借りるか書店で買うかアマゾンで買うかです。私の経験からするとまず図書館では借りられません。人気本は 10 冊ぐらい揃えてくれることもあるのですが 100 番か 200 番待ちです。順番が廻って来る頃には読む意欲も失せてしまっています。それに対してアマ

ゾンでは、kindle 版ならその場でダウンロード、本で買うなら夜に注文を出せば翌日の午前中に届けてくれます。

だからと言って図書館が不要だと申すつもりはありません。ただこれからの図書館は、これらのインターネット、アマゾン、ブックオフのサービスを上回る、あるいは補完するサービスでなければなりません。レファレンスサービスもインターネットの検索で返って来る答えだけのものなら不要です。図書館に行けば本当の専門家またはそのコミュニティに繋げてくれるというところに期待したいのです。図書館の蔵書に関しても新刊本というよりは、たとえ古くても本当に価値のある、市民にとってはちょっと高価で買うには躊躇するが役に立つという本が並んでいる。こんな図書館であってほしいのです。

また本は依然として図書館の重要な要素であることには違いありませんが、図書館は「知の宝庫」の役割から「知の創造」を支援する役割を担う場所であってほしいのです。このためには「知の創造」の主体である「人」が重要になります。従って図書館の主役も徐々に「本」から「人」に変わっていくべきではないでしょうか。

まず、「人」にとって居心地のよい「空間」。「家」で居るようでいて一人でないと感じさせる「空間」です。そしてその「空間」には「本」から醸し出す「知」が漂っている。もちろん一人で静かに本を読む空間でもあるがコミュニティができて互いにディスカッションする場でもあり、誰かの講演を聞く場でもあります。そして「創造物」を発表、発信する仕掛けが随所に揃っている。そんな図書館です。

本を読んでただ書棚に返すだけではない。本を読

めばその本から得たこと、感想を誰かに伝えたいという
想いが湧く。それはまさに「創造」の第一歩であり、そ
れを持ち寄るのです。すると別の視点でこんな本もあ
るよと教えてくれる。そしてこんなやりとりが記録として
保存される。他の多くの人とも共有できるようになれば、
これこそ「知の創造」の発展ではないかと思うのです。
これからの図書館は、そのような「本+α」の情報もある
場であって欲しいと思うのです。

私はインターネット上でもこれを支援する仕組みとし
て「持寄り書評文庫」(囲み記事参照)を開設しました。
図書館というリアルな場での読書会等で併用していた
だくことで、顔が見える者同士の「知」で繋がった関係
が構築できるのではないかと考えています。

ぜひ、ご活用していただければ幸いです。

(「持寄り書評文庫」主宰)

「持寄り書評文庫」について

古い本の中にも、これは読み返してみるべき本とい
うものが必ずあります。そんな本を掘り起こして現代に
蘇らせてくれるという作業は極めて貴重です。

「若い頃に読んだあの本は私の人生を変えた」「こ
れは今も心に残っている」というものが誰しもあるはず
です。そのような本を市井の一人として街うことなく気
楽に投稿し、紹介していただければ幸いです。

新聞や雑誌等でみる有識者による新刊本の書評は
たくさんありますが、またこれらとは違った独特の書評
文庫になると考えています。もちろん話題の本の感想
を寄せていただくことも可能です。

<https://xviews.jp/book/>

こんな本み〜つけた！(第10回)

『図書館に児童室ができた日 アン・キャロル・ムーアのものがたり』

ジャン・ピンボロー/文 デビー・アトウェル/絵 張替恵子/訳

徳間書店(2013年)

紹介:市川 博子(鶴川図書館)



昨今、優れたノンフィクションの絵本が、続々と出
版されているので、私は、大変うれしいです。「知恵
の樹」No. 221 で紹介されていた国松俊英さんの
『ノンフィクション児童文学の力』にも書かれていま
したが、本当にあった話というのは、大人も子どもも大
変興味を持つものです。まして、絵本だと、絵や写真
によっても、色々なことが伝わるので、より分かり
易いし、何より楽しいです。

先の国松さんの本にも紹介されていた『雪の写真
家 ベントレー』(ジャクリン・ブリッグズ・マーティン、
1999年)を初めて手に取った時、なんてオシャレで、
ワクワクする本なのだろうと思いました。この本が、あ
る意味でお手本になったのではないかとと思われるの
ですが、その後に出されたノンフィクションの絵本は、
絵や装丁が一味違ったものになっている気がします。

『バスラの図書館員—イラクで本当にあった話』
(ジャネット・ウィンター、2006年)、『図書館に児童
室ができた日—アン・キャロル・ムーアのものがたり』、
『プーさんと であった日—世界で いちばん ゆう

めいなクマの ほんとうにあった お話』(リ
ンジー・マティック、2016年)、『世界でさいしょのプ
ログラマー エイダ・ラブレスのものがたり』(フィオ
ナ・ロビンソン、2017年)、『森のおくから—むかし、
カナダであった ほんとうのはなし』(レベッカ・ボンド、
2017年)、『図書館を心から愛した男—アンドリュ
ー・カーネギー物語』(アンドリュー・ラーセン、2017
年)、『炎をきりさく風になって—ボストンマラソンをは
じめて走った女性ランナー』(フランシス・ポレッティ、
クリスティーナ・イー、2018年)など、是非ご覧にな
ってみて下さい。「まあ、そんなことがあったのね。」
と本当にあった話に感動すると同時に、「あら、素敵な
絵ね。」「写真が残っているのね。」と絵や装丁に
感心すること間違いなしです！！

さて、その中でも、『図書館に児童室ができた日
—アン・キャロル・ムーアのものがたり』は、図書館に
思いを寄せている人たちには、忘れずに読んで頂
きたい絵本です。彼女がいなかったら、今のように、

子どもたちは、本に囲まれた幸せを味わえなかったかもしれないのです。もちろん、アン一人の力ではありませんが、アンは、図書館に児童室を創ることに大変貢献した人です。特に「図書館のやくそく」を読み上げて、子どもたちが自分の名を書き、本を借りていくというシステムは、子どもたちの力を信じること

に基づいたものです。このシステムは、日本にも広がり、今も、東京子ども図書館で受け継がれているのだそうです。

(会員・自治労町田市図書館嘱託員労働組合)

* 町田市立図書館は、4冊所蔵しています。

まちだ未来の会 第14回学習会参加報告

庄司 洋子

＜公共施設を考える＞その1

「私たちにとって図書館とは！」

6月30日(土)、見出しの学習会が町田市立中央図書館ホールにて参加者32名により開催された。以下、概要を報告する。詳しい記録は、町田の図書館活動をすすめる会のホームページ内にある、まちだ未来の会のコーナーでPDFファイルを見ることができる。

(再構成:手嶋 孝典)

第1部 ビブリオバトル風＜本の紹介＞(詳細割愛)

- ①「移動図書館ひまわり号」前川恒雄著 筑摩書房(紹介者 守谷)
- ②「つながる図書館—コミュニティーの核をめざす試み」猪谷千香著 筑摩書房(紹介者 鈴木)
- ③「拝啓市長さま、こんな図書館つくりましょう」アントネッラ・アンニョリ著みすず書房(紹介者 藪田)

第2部 「私にとって 図書館とは？」

日野市立図書館 石嶋 日出男さん

1980年図書館に入り、3年前定年退職、いま再任用で働いている。

—ここで、日野市立図書館の移動図書館の歩みを描いた紙芝居『移動図書館ひまわり号』上演—

現在、日野の図書館でも問題をかかえている。図書館法が改悪され、国庫補助を受ける館長の有資格要件がなくなった際、日野でもそれに従って条例改正がなされようとしたとき、利用者の方々が市長に直談判し、なんとか全額削除は免れた。総館長、分館長、専門職員、図書館員への信頼感が失われつつあったのか、問題に対する図書館内の反応が鈍い。2005年に分館の窓口委託の話が出た。開設40年経ち、草創期の理念がうすれてきたのではないかと思う。学校給食が業者委託される中、図書館の業者委託は阻止できたが、職員は大幅に削減された。行財政改革が、図書館サービスの混乱を招いている。

こうした時期に大幅改修してできた日野分館も変

革を求められていた。職員は、利用者をカウンターで待つだけではなく、地域へ出ていくべきだという館長の考えから、「日野宿発見隊」が発足。数名からはじまって、小中学校、商店会とタイアップし展開してきた。生き物観察や、記録集の発行、手作り大型はんこを集めるスタンプラリーなど行う。地域の半世紀写真集は、図書館員が担当し、写真を集めるなかで地域の人々との触れ合いが生まれ、図書館資料として受け入れもできた。地元の姿を後世に残したいと協力してくれた方が、その仕事をする中でそれまで苦しんでいた鬱から回復された。日野用水については、町の宝物でありながら30年前暗渠化されていた。改修に当たって事前説明とはかけ離れた工事であったため住民と話し合いが持たれ、一部変更された。このことも、行政サービスの第一線にある図書館だからこそできた。委託ならできなかった。

また、近隣の学校や商店会や自治会などの協力をえて、「ひのっ子日野宿発見」というこども向けの郷土を調べる絵本を作った。参加した小学生のなかには「大きくなったら図書館長になる」という子もいる。14年間同じ職場にいたので、赤ちゃんだった子は中学生になり、高齢者も見送ってきた。さまざまな出会いがあった。築50年の建物はとうとう空調設備がダウンし、石油ストーブでしのぐ時期もあった。施設面でハンディもあるが、毎年25万冊の本の貸し出しを続けている。「図書館が言うんだったら協力し

てやるよ」と言ってくれる人もおり、行政からの存在の中立性、独立性を認められてきていると感じる。日野でも、図書館の運営方法の見直しが進められているが、3月に「第3次日野市立図書館基本計画」が策定され、これが今後どう実現するかが問われている。

～質問～

○資料提供を任ずる図書館が、地域に出ていくことになった経緯は？

A. 2005年日野宿の町並み再生プロジェクトが進むなか、図書館として何もできていなかった。地域館としてプランニング段階での資料提供のしくみ作りを考えるようになった。

○普通は博物館がやることを、図書館でよくできたと思うが。

A. 当時、市は新選組を観光の”売り”にして博物館を首長部局に組織替えし、名称をかえた郷土資料館を別のところに開設した。そんなこともあり地域図書館として地域資料に目を向けることも大事な役目のひとつだと考えて、日野宿発見隊事業に取り組んだ。

○自治体や学校とコンタクトをとるのは難しいのではないか。

A. 近隣の校長先生との出会いがあった。日野宿発見隊の活動を理解してくれ、退職後は3代目の代表を務めてくれている。郷土資料館や公民館とのタイアップも大きかった。

「私にとって 図書館とは？ -市民として」

1. 「中央図書館の利用者として」 土屋利之さん (原町田4丁目町内会)

原町田4丁目町内会は文学館存続を求める請願を出した。私は昭和12年生まれ。名古屋で育ち、戦後の焼け跡に丸善だけが残っていたので、父に通信簿が出ると、ご褒美に本を10冊も買ってもらったのが楽しい思い出だ。その後新潟の小学校に転校したが、中学では本が好きですぐ図書委員に立候補した。高校時代は近隣の県立図書館。大学時代は研究室の書棚の本を読み漁った。会社員になってからは日比谷図書館や神田まちかど図書館、小石川の文京区図書館を利用。社内に読書クラブを作って回し読みをしたりした。昭和59年に町田に

転居してからは、さるびあ図書館を利用し、中央図書館ができた時には、休憩や喫茶スペースがあるのを便利だと思った。今も月に10冊程度小説を除き、幅広いジャンルの図書を借りている。新刊書で予約が多い本は諦めて、しばらくしてからもっぱらブックオフで買っている。中央図書館で不満なのは、おしゃべりする場所がないこと。レーザーディスクは館内視聴だけで貸し出しがないこと。提案したいことは、文学賞などの受賞作は、3か月くらい貸し出さず、館内で見られるようにしたらどうか？

図書館の住み分けがあってもいいのではないかと例えば、中央図書館は資料中心、かつ、ない本については近隣の市の図書館とやりとりをする。地域館は、雑誌や新刊本を置き、座るスペースを設け、楽しめるようにするとか。町田は立派な本屋がない。アマゾンが便利だったり、本屋がなりたたないのではないだろうか。図書館は資料の収集もさることながら、最近の市民のニーズを考えると、サードスペースとしての機能は大切な条件だと思う。私にとって、図書館はサードスペースとしても大事で、生涯大切にしたい施設である。

2. 「地域図書館の利用者として」 郡 真帆子さん (鶴川地区在住)

先日行われた「鶴川地域図書館のこれから」というワークショップに参加したのが機縁で今日の学習会に呼ばれた。大阪出身で、田無、杉並、町田と引っ越ししてきたが、いつも不動産屋の情報で図書館まで何分かが重要な決め手になっている。町田も鶴川図書館があるので鶴川に決めた。鶴川図書館は小学生になった長男は一人で行くことができ、また子どもたちが本に飽きたら広場で遊ばせたりすることもできる。家族4人で利用しており、道筋から途中公園で遊んで、図書館へ行くこともできる。リクエストが便利。小学校で読み聞かせのボランティアをしていてよく借りる大型絵本は、子連れ、荷物持ちで駅前図書館から運ぶのは大変。イベントのついでや書棚を見て選びたいときは駅前図書館を使うなど、二つの館を使い分けている。夫は、全部セルフでできる駅前図書館をメインに使っている。今、(図書館が入っている)団地商店街の建て替えが予定されたり、安心ステーションで高齢者の移動を手伝う活動が始

まったりしていて、なんとかタイアップしていければいい。駅前図書館は夏休みに科学実験などのイベントをしてくれるのは読書へのきっかけとしてありがたい。施設再編は利便性をメインに。分散化をメインにしてほしい。子どもたちは紙で調べることが大事で、調べ学習に子どもセンターのつるっこと連携できないか。駅前図書館はカウンター席が狭くて調べものには不適。司書さんには、もっと表に出てきて専門性を発揮してほしい。

3.「図書館建築の設計者として」大宇根弘司さん(旭町在住)(司会より紹介:文学館、国際版画美術館、ひなた村など市内の建築設計をてがけるほか、山梨など全国で美術館、文学館、図書館等の設計を展開中である。)

図書館関係の人は、図書館は資料提供がメインと言うが、設計者は、来て気持ちいい図書館をメインに考え、お茶を飲むところをどうするか、読書室はどうするか、天井は？壁は？と考える。いま話題になっている図書館のいくつかに行ってみた。

・志木市遊学館(学校・公民館・図書館の複合施設)

建築としてみると、入口がわかりにくい。入ったらすぐに本棚が並ぶ。居心地の良さを感じない。学校の教室との間の寒さ除けをビニールシートでしんでいた。新築してそれほど経っていないのに汚れが見え、材料・ディテールに問題があるのでは？また、ガラスが多用され、シングルグラスなので、冷暖房費維持費が大変だろう。

・武蔵野プレイス

入ったところの一番いいところにカフェで、脇に自動貸出機、2階は子ども、地下に大人用の本と、前後逆なんじゃないか？しかし、心地いい空間で照明もいい。大勢の人が使っている。材料はどうか？かなりセミナーの部屋は透明性が高く、中でやっているとところが見える。満室。

・太田市美術館図書館

四角いボックス形。魅力的な建築ではあったが、図書館としては？四角の美術館機能のまわりを斜路で登ってゆく構成になっていて、その斜路の部分が図書館になっていて、階段にも書架、天井までの高い書架、どう管理するのか？天井のガラス張りは

暑いのではないか？

・大和市 シリウス

機能の違うものが各階に混在している。1階は喫茶室と図書館機能が混在し、コントロールはどうしているのか？

・海老名市立図書館

1階に書店が入って、上に図書館。建築はいい。が図書館としてはどうか。

・岐阜 メディアコスモス

真四角でペアグラスが囲む。1Fお茶スペースもある広場、2F図書館機能。3×15 cmのヒノキをはりあわせたシェル構造。いい空間。展示室、おはなしスペース等、6つ位ロートをひっくり返した形の半透明スペース。にぎわっていた。問題は、大きい建築で、朝日夕日がまともに入り、ふせぐカーテンが巻き上げ式で、大変な負荷。冷暖房費大。むずかしい構造のため雨漏りの心配も。

近くにある県立図書館のほうは、つまらない建物で、ほんの2、3人しかいなかった。

以上、建築家はつい勇み足になり、怒られるものである。

(以下、4. 意見交換「町田の図書館、これまで！そしてこれから！」は、省略させて頂いた。)

しょうじりおさん 国際手作り絵本コンクールで受賞！！

会員のしょうじりおさんが、富山県射水市おしま国際手作り絵本コンクール 2018 で銀賞・富山県教育委員会賞を受賞されました。

作品は『おおきくなったら』という仕掛け絵本です。しょうじさん、おめでとうございます！

しょうじさんのコメント

「ひとえに、地域の文庫活動で子どもたちが見てくれたおかげです。みんな子どもたちが教えてくれました。」



「団結力」を武器として

自治労町田市図書館嘱託員労働組合執行委員長 津田 桂子

今年度、自治労町田市図書館嘱託員労働組合の執行委員長を務めさせていただきます、鶴川駅前図書館の津田桂子です。

「町田の図書館活動をすすめる会」(以下、「すすめる会」)の皆様には、日頃より私たち組合の活動に、ご理解ご支援いただき、感謝申し上げます。

私は以前、執行委員の時に、団体会員として「すすめる会」に出席させていただいておりました。その時、図書館は内部で働く職員だけではなく、外部の方たちにも、こんなに支えられているのだということを知り、感激したのを覚えています。

私たちの組合は、昨年結成 10 周年を迎えました。私も図書館に採用されて、今年度 11 年目に入りましたので、組合と共に駆け抜けてきたと実感しています。

現在、私たちの組合は、組合員数 100 名を超え、10 年の間に幾多の待遇を勝ち取ってきました。しかし、非正規雇用である私たち嘱託員は、更なる処遇改善を要求するも、大きな法の壁に阻まれてきました。

そんな状況の中、2017 年 5 月、地方公務員法と地方自治法の改正が成立し、2020 年 4 月より施行されることとなりました。新たに「会計年度任用職員制度」が施行されます。今年度はその新制度の構築に際して、大変重要な年になります。責任の重大さに身のすくむ思いですが、組合としてこれまで獲得してきた待遇を死守し、安定雇用と更なる処遇改善を求めていく所存です。

私たち図書館の嘱託員は、皆、図書館を愛し、情熱と誇りを持ってこの仕事に従事してきました。私たちの組合加入率は 100%に近い数字です。一人一人はとても弱い立場だと思いますが、この団結力は、私たちの大きな武器だと自負しています。

6 月 14 日に開催された第 11 回定期大会において、更に団結を強め、この重大な局面に一枚岩となって立ち向かうことを、確認致しました。

「すすめる会」の皆様、そして、市民の皆様、今後とも私たちの組合への変わらぬご理解ご支援を、どうぞ宜しくお願い致します。

(会員・鶴川駅前図書館)

訂正とお詫び

「知恵の樹」№224 2 頁左側上から 18 行目以降の記事に誤りがありましたので、訂正するとともにお詫びいたします。

「第7回まちだ図書館まつり～本はともだち～」報告／について「8月の第 1 回打ち合わせ会の折には役員の決定ができず」の部分は、「6月の説明会の折には役員の決定ができず」という執筆者の久保さんの原稿を編集の際に誤って書き換えてしまったものです。執筆者の久保さんと第7回まちだ図書館まつり実行委員会事務局(町田市立中央図書館児童サービス担当)には、ご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます。

併せて、その後に続く内容についても、前記実行委員会事務局から訂正依頼がありましたので、以下のとおり訂正します。
(文責・手嶋 孝典)
(訂正前)

第7回の図書館まつりは、例年どおり図書館が登録団体に呼び掛けて説明会からスタートしました。が、8月の第1回打合せ会の折には役員の決定ができず、コアスタッフの決定のみ。後日、事務局が独自に動いて委員長を依頼、決定。参加団体はその報告をメールで受けるという運びになり、副委員長、広報担当など他の役員の選出はなく、これまででない実行委員会体制となりました。

(訂正後)

第7回の図書館まつりは、例年どおり図書館が登録団体に呼び掛けて説明会からスタートしました。8月の第1回打合せ会では、実行委員長とコアスタッフの5名は決まりました(実行委員長については、立候補者や推薦などがなく、事務局が提案した人に決まりました)が、この場で副委員長などの役員の選出はなく、これまででない実行委員会体制となりました。

第 17 期図書館協議会 第 8 回定例会報告(報告者 清水 陽子)

2018 年 6 月 25 日(月)午後 2:00~3:45 中央図書館・中集会室 傍聴者:なし

【報告事項】《館長報告》 中嶋副館長より

1. 教育委員会第 3 回 6/1

＜議案＞第 4 期町田市市民文学館運営協議会委員の委嘱について

Q:委嘱するということは文学館が存続することが前提か⇒運営協議会に意見を求められることになるので、運営協議会は必要。

＜報告事項＞

・館野鴻絵本原画展 ぼくの昆虫記 7/14~9/24 町田市市民文学館 関連イベント多数あり

Q:チラシの内容が多く、読みづらい。関連イベントはカレンダーにするなど工夫が必要。⇒予算の関係上、数種類のチラシは作れない。イベントについては担当者が別途作成すると思う。

Q:図書館との連携は⇒近館で関連図書紹介コーナーで協力。

・「POP コンテストまちだ 2018」の実施について

7/13~9/28/応募資格:中学~大学生相当年齢で、利用登録者。キン・シオタニによる推薦図書枠、自由図書枠を審査、各賞を選考。10月に表彰式。

Q:広報は⇒市内中学・高校・大学。SNSも利用。

意見:毎年継続であれば、国語で扱うこともできる。

意見:学校に対するコンクール案内は非常に多い。校長会や図書指導員の研修時に PR しないと職員の間は得にくい。

意見:夏休みの中高生に対しては、塾や予備校にチラシをおくことも考えられるのでは。

意見:キン・シオタニさんとの関係は継続して欲しい。

2. 平成 30 年第 2 回町田市議会定例会一般質問

・わたべ真美議員 6/13

市立図書館の将来像について 再編に向けて市はどのようにすすめているのか。⇒あり方の検討中。

・東友美議員 6/13

子どもの相談窓口について 図書館も窓口として活用しては。⇒日頃、学校のある時間に来館する子どもには声掛けも含め、目を配っている。

・熊沢あやり議員 6/18

これからの図書館について これまで、現状、今後について⇒利用者の減、施設の老朽化など課題はあるが利用の仕方の変化に対応し特に子供の成長の支援、高齢者の支援などに努めていきたい。

・大西宣也議員 6/18

図書館について 長期勤務者が多い、同じ職場に二つの労働組合がある理由。長期勤務者が多いことが改革を妨げていないか。⇒司書の専門性についてや、嘱託員は地方公務員ではないので同じ組合には入れないことなどについて説明。

Q:図書館の職員に長期勤務が多いことは理解できたが、特に障がい者サービスの職員について、その専門性を高めるために研修や人事はどのようにされているか⇒都立の研修があるが初心者向けでスキルアップという意味では不十分。特に障がい者サービスの専門家を育てるようなことはできていない。

委員長意見:図書館界では図書館職員の専門性について認識されているが、行政の一般職の中では認識が不足していて専門性を育てる体質が弱い。

意見:大学図書館でも司書資格を持たない人が配属されることがあるが、図書館の自由や著作権など職員として当然知っているべきことを業務をこなしながら身につけていくことはかなり難しいと感じている。職員が減らされる中で職員を育て、仕事を継続させていくことが難しくなっていることは問題。

・殿村健一議員 6/18

文学館、博物館、鶴川図書館、さるびあ図書館は採択された請願の趣旨に沿って存続すべきと考えるが、どうか。⇒政策経営部が回答 行政改革プランの中でやっている。

委員長:本会議で図書館に関する質問がこれだけ多く出るのは珍しい。請願や再編対策によることもあると思うが、議員も図書館に関心を持ち、自分でも利用してもらい理解を深め、身近にある図書館に大切さや予算が必要なことなどもっと理解して欲しい。

【協議事項】 1.2017 年度図書館評価について

7月定例会で依頼予定。引き続き日程調整。(会員)



ひるば

例会 6/26 (火) 報告

・18:00～20:05 中央図書館・中集会室
出席：石井・伊藤・久保・鈴木(真)・
手嶋・松下・守谷

6/29(金) 16:30～
No225 印刷・発送等(手嶋・野町・丸岡)

議題

1. 会報について

No226: 巻頭言 未定⇒花谷修一さん(多摩市在住)、
図書館協議会第8回定例会報告(清水・山口)、「こんな
本見〜つけた!」第10回(未定)⇒市川博子さん
(鶴川駅前図書館)、まちだ未来の会第14回学習会
記録(庄司)

2. 今年度の世話人について

図友連 ML(手嶋・増山)補充せず、2名で決定。

3. 今年度の活動計画について

「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総
合管理計画」への対応

まちだ未来の会と連携。独自の取り組みも。

講演会

守谷提案: 寺脇研氏(元文部科学省局長でゆとり教
育の推進者、京都造形芸術大学教授)はどうか。まちだ
未来の会代表の園田さんを通して打診してみる。⇒10
月か11月に多摩地域の各団体にも呼び掛けて講演+
シンポジウムを開催する(7/6に園田さん、守谷、手
嶋で打ち合わせを行い、園田さんから寺脇氏に打診す
ることになった)。

4. 「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総 合管理計画」等について

まちだ未来の会の取り組み

・学習会

第14回学習会

日時:6月30日(土)午後2時～4時30分⇒午後
1時30分～4時30分 場所:中央図書館ホール
今後個々の施設を取り上げる。第1回は図書館。
今回は文学館を取り上げる(7月21日(土)午後2時
～4時30分場所:町田市民文学館第6会議室)。

「すすめる会」の取り組み

・鶴川、さるびあ両図書館を存続させる運動づくり。
地元との連携を模索。指定管理者制度導入を危惧。

5. 学校図書館指導員について

その後の進捗状況:情報なし

6. 第8回まちだ図書館まつりについて

説明会は、6月28日(木)に中央図書館ホールで開
催予定。「その前に、第7回の反省会の意見を踏まえて
館長を交え『まちだ図書館まつり』について意見交換を
したい。」「図書館まつりについて、館長の考えを伺い
たい。」と、これまでに実行委員長・副委員長を経験し
た久保、齋藤、清水、増山が図書館側に要望。6月20
日(水)に会談の場が設けられた。当日の図書館側の出
席者は館長、副館長、事務局担当職員。「まつりに対し
て上層部の方の熱意が感じられない」と率直な感想を
伝え、共にまつりを盛り上げていきたいと提言と要望を
行った。なお、第7回の資料「最初に共有したい確認事
項について」において、これまでに<図書館として>
の項目にあった文言“実行委員会と共に”が消去され
ていたことについて第8回においては元に戻すことが
約束された。

7. 「知恵の樹」印刷用紙代の不足について

今年度(9月まで)の追加発注分を「すすめる会」が
負担することにした。

8. 学習会の記録及び「知恵の樹」への転用について

「すすめる会」(まちだ未来の会を含む)の学習会の
記録については、①記録者の原案をホームページ管
理者がチェックした上で発言者に記録の確認を求める。
②ホームページ管理者は、発言者が修正したものを
「知恵の樹」の編集者に送り、ホームページに掲載する。
③「知恵の樹」の編集者は、ホームページ管理者から
送られてきた記録を基にして、「知恵の樹」の紙面に合
わせて記事を編集する。

9. 夕涼み会の開催について

日時:8月28日(火)午後6時30分～

会場:たがまや 会費:4千円程度

報告

1. 団体及び個人からの報告

囑託労:6月14日(木)第11回定期大会、副代表の
久保があいさつ

柿の木文庫:「鶴川地区協議会 地域活性化事業」
の助成金を申請し、頂いた。

手嶋:5/29日(火)国会議員要請行動に参加。文科副
大臣、総務副大臣と面談。

《編集後記》秋に多摩地域にも呼び掛け、講演とシン
ポジウムの催しを企画している。乞うご期待。(T²)